

## 第537回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和5年3月1日（水）午前11：00より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名  
○出席委員数 7名  
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

委員長 林 新一郎

副委員長 井口 弥寿彦

委員 浅井 隆彦

委員 加藤 恵美子

委員 笹本 正治

委員 瀧川 浩

委員 武重 正史

○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

委員 南澤 光弥

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 （代表取締役社長）

船木 正也 （常務取締役 編成業務・放送番組審議会担当）

太田 耕司 （常務取締役 報道制作・企画事業担当）

西條 彰浩 （報道制作局長）

早川 英治 （編成業務局長）

浅輪 清 （編成業務局次長 兼 考査部長  
兼 放送番組審議会事務局長）

北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）

伊藤 晴彦 （報道制作局次長）

飛田 修一 （報道制作局制作部）

4. 議題

（1）番組審議

『 NBSフォーカス∞信州

こころ響く31音 ～南信州と歌会始～ 』

令和5年2月3日（金）夜7時00分～7時57分放送

(2) 視聴者対応報告（令和5年2月分）

(3) その他

## 5. 議事概要

### (1) 番組審議

- ・オープニングが厳かな雰囲気伝える歌会始の映像で、その行事と信州、とりわけ飯田・下伊那地域の人達との縁が深く入選者が多いのはいったいなぜなのだろうという問いを投げかける入りで、視聴者の興味を引くように端的にまとめていると感心した。
- ・「なぜ飯田・下伊那地域で入選者が多いのか」というテーマの問いかけについては、濃密な人の繋がりや交流、裾野の広がり、学ぶ意欲の高さと言った点が番組内で取り上げられていた。
- ・入選した木下瑜美子さんと孫の玲奈さんとの掛け合いというか、短歌を作られるまでの苦しい思い、生み出されるところの苦しさがスポーツに似た汗をかいて作り出されるような表現が伝わって来た所が良かった。
- ・孫の玲奈さんも入選した木下瑜美子さんを軸に、人の繋がりを丹念に取材して飯田・下伊那地域に短歌愛好者のネットワークが分厚くできている構図を描写した。
- ・私も玲奈さんの短歌だったら読みたいと思って見られたので、いろんな年代の人が楽しめたのではないかと思う。
- ・木下玲奈さんの作品が大変に魅力的だと思った。瑞々しい感性に溢れていて、歌自身の素晴らしさを楽しむことができた番組だった。

- ・ 入選者の日々の生活、歌作りのドキュメントといったような描写をして、謎解きというよりは短歌の魅力が存分に伝わった。
- ・ 皆さんの取り組みを見ると楽しくて充実感に満ち溢れた日々で、それは短歌作りだけではなくて、短歌は日々の生活にも潤いを与えていることが素晴らしいと感じた。
- ・ 相当の産みの苦しみがあって、この言葉を使うのは客観的にはどういうインパクトを相手に与えるのかを客観視して作る、まさに物作りというか、そこにプロセスみたいなものが知れたことが興味深く感じた。
- ・ 学ぼうという意思が強い方が多いのかというルーツを丁寧に取り上げ、地域放送局ならではの深掘りをして良かった。
- ・ 「同好会ではなくて人生や世の中を見つめ切磋琢磨する歌会」だというコメントが良く、大きな大会を目指して切磋琢磨され、地元の南信州新聞の果たす役割も大きいと感じた。
- ・ 下伊那から多くの歌が出るのは歴史的な背景はともかく、情の細やかさとか人と人との繋がりとか地域風土が根底にあって歌が生まれてくるということをおそらく映像で伝える意図があったのではないか。
- ・ 少しずつ気が付いたら書いていくという生み出すための努力、実際に短歌を作る方の取り組みも初めて目にした。
- ・ 日本人の多彩な心の表現の言葉って、すごいと感じた。
- ・ 短歌を1つの軸として地域の生活に密着したヒューマンコミュニケーション、人間関係がよく表れていた。
- ・ 人と人との心の美しさも十分表現できている良い番組だった。
- ・ 歴史に残る歌会始が、古い映像を含めてきちんと使われていて、時間とか手間もかかって大作ができていることについて感動した。

- ・ 大工さんの日常生活から「皮膚が凍り付いてしまう」という、ああいったまさに生きている言葉が短歌の中に出てくる。それをもう一回学び直したいと思った。
- ・ 番組を視聴して詩歌の類というものの楽しみ方が多少わかったような気がした。
- ・ 知らない世界を楽しまれている人達のことを、映像を通じて接することができ、茶の間で疑似体験できることは、テレビ番組の元々の大きな魅力、楽しみだと改めて見せてもらって、テレビの力というようなものを感じた。
- ・ 和歌に限らず、年取った時の趣味とか生きがいみたいなものを持てるのは良いのだろうと感じた。
- ・ 特に31音という制限の中で凝縮された高度な芸術だということを教わり、和歌の鑑賞の仕方を少し教わったような気がする。
- ・ 満蒙開拓はちょっと重いテーマだが、テーマが分かっていたらどんな人でも心が動かされ感動するという意味で、良いトピックを取り上げた。
- ・ 満蒙開拓団の所の北村栄美さんの話に引き付けられて、短歌を見たくなるような感じがした。
- ・ 満蒙開拓団が出て来たことによって、歴史の重さというのを言葉にして伝えようというところに感動した。
- ・ 満蒙開拓平和記念館の企画展が、飯田・下伊那地域の短歌熱とどう結びついているのか分かりにくかった部分があった。
- ・ 前提には下伊那における国学の隆盛があり、幕末以降の松尾多勢子のような人物が出てきていることをもう一度評価し直さないと、点としての歴史になってしまうのではないかという危惧を覚えた。
- ・ 南信州という地域が新聞に投稿するということや短歌の教室があったが、大体どのくらいの割合の人たちがやっているのか、どのくらいの人たちが応募しているのか疑問を感じた。

- ・ 作者が自身の作品を解説する時に、作品によっては解説の途中でテロップの文章で示された歌が消えて映像だけになってしまうことがあり、残念だった。片隅でも文字を置きながら作者の解説なりドキュメントの風景なりがあると良かった。
- ・ 心の響き方や感性があるので選択基準がない中でどう選ぶのか、どうやって2万点の中から入選の10点を選ぶのか、もうちょっと深く勉強してみたいと思った。

## (2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和5年2月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

## (3) その他

### 配布資料

- ・ 第536回番組審議会（令和5年2月）議事録
- ・ 視聴者対応報告資料（令和5年2月分）
- ・ 南澤委員レポート
- ・ モニターレポート
- ・ BPO報告（NO.248）
- ・ 民間放送（第2212号）

以上